

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

17 画家・釘町彰（2020年12月10日）

パリにアトリエを構える画家の釘町彰さんは、多摩美術大学で日本画を学んだ後、フランスでメディアアートを勉強されました。日本画の技法を用いて自然をモチーフにした幻想的な絵画や映像作品を発表されています。



Installation view à la Galerie Pierre-Yves Caër Photo : Yuji ONO

日本の伝統的な絵画を総称して日本画と言いますが、これは明治時代になって西洋から伝えられた油彩画と区別するために生まれた言葉です。一般的には紙や絹、木、漆喰などに、墨、岩絵具、胡粉、染料などの天然絵具を用い、膠(にかわ)を接着材として描く技法が用いられます。また、金箔などの金属の材料を使うこともあります。

釘町さんの絵画は、揉んだ和紙の上を墨で黒く塗って、胡粉(ごふん)という貝殻から作られた白い顔料を使って白く描いています。下地の制作に多くの時間を割いていらっしゃるそうです。伝統的な日本画とは異なる現



Peinture murale chez KENZO TAKADA Photo : Yuji ONO

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

代的な作品ですが、日本人が見るとどこか懐かしいような感覚を覚えたのは、水墨画を思い出させるからかもしれません。



Bois de pins par HASEGAWA Tohaku

釘町さんが最も尊敬する画家は、16世紀に活躍した絵師の長谷川等伯だそうです。東京国立博物館が所蔵する等伯の代表作である国宝「松林図屏風」は、毎年1月の短期間のみ展示されることが恒例となっており、水墨画ファンの楽しみになっています。

釘町さんは、日本の文化庁から派遣されてパリで研修した経験をお持ちです。先日、現在フランスで研修中の後輩たちとのオンライン交流会に参加してくださいました。将来に不安を抱える研修生たちに対して、焦らずに作品の質を高めるために勉強を続けるよう励ましてくださいました。釘町さんは、これからも繊細な技法を用いたダイナミックな作品で、私たちの目を楽しませてくださることでしょう。